

企画展

盛口 満 原画展

たからばこ

ゲッチョ先生の宝箱

沖縄大学教授、フリーライター、イラストレーターとして昆虫・植物・動物・キノコなど様々な自然、そして人と自然を見つめ描いてきた通称ゲッチョ先生こと盛口満さん。この展示ではゲッチョ先生の原画(150点以上)や著書(約100タイトル)を大公開します。原画に関連する動植物の標本や写真、生きた昆虫なども交えて紹介します。ゲッチョ先生の描く自然の宝箱から、あなたはどんな宝物を見つけられるかな？

ぼくは子どものころから、ものを拾い集めるのが好きだった。千葉の海辺で育ったぼくは、海岸に打ち寄せられる貝殻集めに、まず夢中になった。
『ぼくのコレクション』より

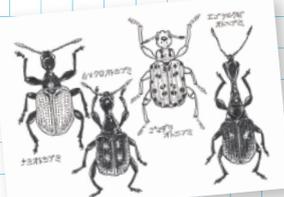


ゲッチョってこんな人

ゲッチョの由来やプロフィールを紹介します。

ゲッチョの原画『昆虫』

雑木林の虫、街中にある虫、沖縄の虫などの原画を紹介します。



ぼくは生物が好きだった。庭に植物園をつくり、昆虫採集と貝殻集めに熱中していた…。自然はいつも「そこ」にある。ただ「それ」に気づかないだけ。
『僕らが死体を拾うわけ』
『身近な自然の観察図鑑』より

ぼくの家の冷蔵庫の冷凍室には、食べ物ほとんどはっていません。拾ってきたドングリとか、鳥の死体とかでいっぱいだからです。
『ゲッチョセンセのおもしろ博物学』より

『ゲッチョセンセのおもしろ博物学』より



教えてゲッチョ『自然の描き方』

ゲッチョ先生のスケッチ方法、使用している画材などを原画とともに紹介します。

生き物をうまく描くには、
①描きたい対象に出会えること
②描きあがった絵を想像できること
③描くためのウソのつき方を知ること。
というポイントがあるように思う。
『昆虫と自然の描き方教室』より

ゲッチョの原画『植物』

ドングリやモダマ、ひつつき虫など木の実・草の実の原画を紹介します。



ゲッチョの原画『動物』

身近な鳥(イソヒヨドリ)や哺乳類(タヌキ)、動物や魚の骨などの原画を紹介いたします。

「動物の死体を持っていくと、あいつ、喜ぶ」そんな認識が、生徒たちのあいだに出来てきた…。あいつに何か持って行った時、どれくらい喜ぶかでその珍しさがわかる…。
『僕らが死体を拾うわけ』
『ぼくらの昆虫記』より

虫を描いてみよう!

昆虫の標本を観察して、スケッチできるコーナーです。



きらわれものの虫は、きらわれているがゆえに、生徒たちの無関心の殻を打ち破る力を秘めている…。
『昆虫の描き方』より

ゲッチョも描いた生きもの『生態展示』

原画や著書に出てくる生きもの(オオゴキブリ、ツダナナフシ、オオゴマダラなど)を展示します。

得手不得手はさておき、一番好きなことは何かと問われれば、それは生き物の絵を描くことである。
『昆虫と自然の描き方教室』より

特定の視点を持つことで、初めて存在が視野に入る生き物たちがいる…。森に行こう。見えない世界を見るために、それにはどんな眼鏡をかけていこうか。
『歌うキノコ』より

ゲッチョの原画『キノコ』『粘菌』

雑木林のキノコ、冬虫夏草、粘菌などの原画を紹介いたします。

ゲッチョの本大集合!

ゲッチョ先生が手がけた数々の本を展示します。閲覧も可能です。

ぼくには理科教師、フリーライター、イラストレーターという3つの肩書きがある…。教員をしながら、好きな生き物の話を本に書き、その挿絵を自分で描く。
『昆虫と自然の描き方教室』より



生物多様性講演会

ゲッチョ先生講演会

「自然はぼくらの宝箱」

講師: 盛口 満



身近な自然や昆虫にもあふれている宝物(不思議・発見・感動)について、素敵なイラストや写真、実物を交えてお話いただきます。

2025年2月23日(日・祝) 13:00~14:30

会場: 東り いたみホール(6F中ホール)

定員: 120名 参加費: 無料

* 予約優先・当日会場にて受付します。

* 予約受付などの詳細は2025年1月上旬にHPなどで公開予定。